

館内での
チケット販売は
ございません。

逝ける映画人を偲んで

2019—2020

In Memory of Film Figures We Lost in 2019—2020

2021年

7月20日(火) — 9月5日(日)

会期中の休館日▶▶▶月曜日

* 新型コロナウイルス感染症への対応のため、定員と上映スケジュールは国立映画アーカイブのHPにてご案内します。会期および前売指定席券の発売日変更等の場合もHPでお知らせします。

* マスク着用のない方の入館をお断りします。

* 来館者全員に検温を行います。37.5℃以上の方は入館をお断りします。



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

新型コロナウイルス感染症予防のため

前売指定席券のみ販売します。
障害者(付添者は原則1名まで)・国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズの方も前売指定席券をお求めください。

国立映画アーカイブ[2階]

長瀬記念ホール OZU

各回の開映後の入場はできません。

前売指定席券(販売期間にご注意ください)

毎週火曜日10:00amより、チケットぴあにて翌週(火~日)上映回の前売指定席券(全席指定席)を販売します(発売日変更などの際はHPで告知します)。

[Pコード:551-490]

前売料金 *別途手数料がかかります。

一般:520円/高校・大学生・65歳以上:310円/小・中学生:100円/障害者(付添者は原則1名まで)・キャンパスメンバーズ:無料

*印が付いている作品は成人映画です。小・中学生券はございません。また成人映画上映の際は、女性専用席を設けます。希望される方は「女性専用」と券種名に記載のある券をご選択ください。料金区分は通常の上映回と同じです。

●料金区分の違う前売指定席券では入場できません。差額のお支払いで観覧することはできません。

●学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

下記に該当する方は購入をお控え願います。

新型コロナウイルス感染症について

- 陽性判定、あるいは医師に自宅待機指示を受けている方
- 検査結果待ち、あるいは体調不良の諸症状がある方
- ご自身の身近に感染の疑いがある方
- 過去14日間以内に、陽性の方と濃厚接触がある方、感染が拡大している国・地域への訪問歴がある方

入場方法

- 前売指定席券は来館前に必ず発券をお願いします。
- 開場は開映30分前です。
- 各回の開映後の入場はできません。

表紙画像:京マチ子
(写真協力:公益財団法人川喜多記念映画文化財団)

長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

長瀬記念ホール OZU
上映作品

逝ける映画人を偲んで
2019—2020

In Memory of Film Figures
We Lost in 2019—2020

日本映画の輝かしい歴史を築き、惜しまれながら逝去された映画人の方々と、それぞれの代表的作品を上映することで追悼する企画「逝ける映画人を偲んで」を2年ぶりに開催します。この2年のうちにも、日本映画は多くのかけがえのない人々を失いました。

本企画では、2019年1月1日から2020年12月31日の間に逝去された方々へのオマージュとして、57作品(55プログラム)を上映し、70名以上の映画人の業績を回顧・顕彰します。

縁の方々、そして映画ファンの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- ◎=監督・演出 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演 ◎=解説・ナレーション ◎=声の出演
- スタッフ、キャスト欄の人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 上映をもって追悼する方々の名前は、青色で表示しています(出演者の場合、カッコ内は映画中の役名です)。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- 特集には不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
- タイトルの横に*印が付いている作品は、公開当時成人指定を受けた作品です。当該の上映回に女性専用席を設けます。

マスク着用のない方の入館をお断りします。

当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止策

- 来館者全員への検温を実施。
- 館内各所に手指消毒液を設置。
- 清掃・消毒を強化。
- ホール内の換気を強化。
- スタッフはマスク・手袋等を着用して対応。
- 受付などの対面場所に飛沫ガードを設置。

ご来館の皆様へお願い

- 発熱や風邪などの症状がある方は、来館をお控えください。
- 咳エチケットにご協力ください。
- 館内で体調を崩された場合は、スタッフにお知らせください。
- こまめな手洗いや手指の消毒にご協力ください。
- 入退場やご観覧の際は、互いに適切な距離を保つようお願いいたします。
- ロビー等での飲食は、蓋の開まる飲み物以外は禁止にさせていただきます。
- 感染発生時の入館者追跡のため、ご自身で入館日時の記録をお願いします。

*上映スケジュールは国立映画アーカイブHPをご覧ください。

1

白毛女(111分・35mm・白黒・日本語字幕付)

白毛女

岸富美子は1935年に編集助手として第一映画社に入社。その後、満洲映画協会で終戦を迎えると、中国共産党の指導の下、新しい中国映画を製作するために編集者として活躍。また中国の若い映画人に編集を教え、後進の育成にも力を注いだ。本作は、地主の横暴に耐えかねて山奥に逃げ込んだ娘を描いた歌劇の映画化で、歌唱シーンもあり、映像と音の編集に岸の高い技術が求められた。中国で大変な好評を博し、日本でも1955年に公開された。

1950(中国/東北電製片廠)◎岸富美子◎王演、水華◎賀敬之、丁毅◎楊潤身◎吳蔚雲◎盧淦◎羅維、張魯、馬可◎趙路、張守維、田華、胡朋、李百萬、陳強、李壬林、李波、管林

2

夫婦(86分・35mm・白黒)

『めし』(1951、成瀬巳喜男)の姉妹篇として企画された作品で、同様に夫婦のすれ違いを繊細に描く。『青い山脈』、『続 青い山脈』(共に1949、今井正)の女子学生役で一躍スターとなった杉葉子が、夫の同僚(三国)に思慕され、そのために夫(上原)から嫉妬されながらも合理的にふるまう妻役を好演。杉は俳優としての活動期間こそ短かったが、戦後の新たな女性像を形作った一人であった。

1953(東宝)◎杉葉子(菊子)◎成瀬巳喜男◎水木洋子、井手俊郎◎中井朝一◎松山崇◎齋藤一郎◎上原謙、三国連太郎、小林桂樹、岡田茉莉子、藤原釜足、滝花久子、田代百合子、木匠マユリ、中北千枝子、豊島美智子

3

蝶々夫人

(114分・35mm・カラー・日本語字幕付)

Madame Butterfly

ブッチーニのオペラを映画化したテクニカラー作品。日伊合作として、日本から俳優やスタッフが赴き、ローマのチネチッタで撮影された。ヒロインに抜擢された八千草薫は、録音されたイタリア語の歌唱に合わせて演じるという難役をこなし、可憐な美しさで魅了する。八千草は宝塚歌劇からキャリアをスタートし、映画、TV、舞台と多方面で活躍、生涯現役として輝き続けた。

1955(東宝=リッツオーリ・フィルム=ガローネ・プロ)◎八千草薫(蝶々さん)◎カルミネ・ガローネ◎J・L・ロング◎森岩雄◎クロード・ルノワール◎三林亮太郎、マリオ・ガルブリア◎ジャコモ・ブッチーニ◎ニコラ・フィラクリティ、田中路子、フェルディナンド・リドンニ、中村哲

4

ロマンス娘(97分・35mm・カラー)

『ジャンケン娘』(1955、杉江敏男)に続く「三人娘」の明朗なミュージカル。仲良しの三人娘は彼氏との旅行のためにデパートでアルバイトを始めるが…。ノンクレジットだが、柳生悦子が全篇の衣裳をデザインし、Aラインのワンピースなど小粋なファッションでモダンな雰囲気を実際立てた。柳生は本作を皮切りに『君も出世ができる』(1964、須川栄三)、『日本海大海戦』(1969、丸山誠治)、『敦煌』(1988、佐藤純彌)など100以上の映画を担当。

1956(東宝)◎衣笠貞之助◎柳生悦子◎杉江敏男◎◎井手俊郎◎長谷川公之◎完全倉泰◎村木忍◎神津善行◎美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみ、宝田明、森繁久弥、江原達治



夫婦

5

真夜中の顔(76分・35mm・白黒)

新藤兼人脚本、宇野重吉監督によるサスペンス。銀座のバーのホステス(桂木)が事故死した。彼女の馴染客である大物政治家の息子(若原)はスキヤダルを恐れ、バーにいた人間たちの口裏を合わせて、心臓発作として処理しようとするが…。密閉空間で展開される曲者俳優陣のやりとりは見ごたえ十分。とりわけギャングに扮した梅野泰靖が、劇団民藝の大物たちを向こうにまわし、存在感を発揮している。

1958(歌舞伎座)◎梅野泰靖(松三)◎宇野重吉◎新藤兼人◎荒牧正◎松山崇◎斎藤一郎◎三国連太郎、桂木洋子、中川弘子、若原雅夫、水戸光子、信欣三、清水将夫、小沢栄太郎、小川虎之助、滝沢修

6

弁天小僧(86分・35mm・カラー・英語字幕付)

歌舞伎の「白浪五人男」を題材にした娯楽大作。西岡善信は大映京都撮影所を拠点に、衣笠貞之助や市川崑など巨匠監督の作品を数多く手がけ、その後も長きに渡り映画美術の第一線で活躍しつづけた。本作はほぼセットで撮られており、時代考証に縛られない大胆な空間設計から長屋セットの細部の仕掛けまで、伊藤大輔の演出意図を踏まえた工夫にあふれている。1952年に東宝でデビューした青山京子は本作で、清純な町娘を好演。近藤美恵子は大映で時代劇を中心に8年間で約80本の映画に出演した。

1958(大映京都)◎西岡善信◎青山京子(お半)◎近藤美恵子(お鈴)◎伊藤大輔◎八尋不二◎宮川一夫◎齋藤一郎◎市川雷蔵、阿井美千子、島田竜三、黒川彌太郎、河津清三郎、小堀明男、伊澤一郎、香川良介、勝新太郎

7

坊ちゃんワンマン親爺

(76分・35mm・白黒)

権左衛門(由利)は息子・太左衛門(高島)を結婚させようと上京するが、息子にはすでに恋人がいた。新東宝ニューフェイス第1期として映画界入りした高島忠夫は、東宝に移籍した後は東宝ミュージカルの舞台でも活躍し「歌える二枚目」として人気を集めた。新東宝配給「坊ちゃん」シリーズ(1956-59)は多彩な才能を持った高島の持ち味を生かした代表作。高島は全8作のうち7作に出演している。

1959(富士映画)◎高島忠夫(高山太左衛門)◎近江俊郎◎新井一◎若橋秀光◎朝生治男◎渡辺由明◎由利徹、久保菜穂子、南利明、花岡菊子、万里昌代

8

女子大学生 私は勝負する

(88分・35mm・白黒)

仲間と無軌道な行為を繰り返していた大学生の順子(原)が、学生結婚などを経て、自立していくさまを描く。映画初主演となる原知佐子が、勝負な大学生を好演。不安ゆえに強がっている若者を、魅力的なつんとした表情で演じている。原はその後も映画やTVなどで幅広く活躍。特に、TBSのドラマ「赤い」シリーズ(1974-80)では、強烈な印象を残した。

1959(東京映画)◎原知佐子(門脇順子)◎板谷紀之◎門脇順子◎寺田信義、野木一平◎栗林美◎狩野健◎池野成◎三橋達也、川合伸旺、水谷貞雄、露口茂、柏木優子



女子大学生 私は勝負する TM & ©1959 TOHO CO., LTD.

霧の夜の男(86分・35mm・カラー)

やくざの家業を捨てて船員となった青年(高橋)が父親(小沢)にかけられた嫌疑を晴らすため奔走する。高橋英樹がキャリアの初期に主演した日活アクションの一作で、のちのヒットシリーズ「男の紋章」(1963-66)に通じる要素も。高橋、松尾昭典監督とたびたび組んだ萩原が夜霧の埠頭を鮮烈かつ情感豊かに捉えている。

1962(日活)◎萩原◎松尾昭典◎下村明◎星川清司◎中村公彦◎池田正義◎高橋英樹、吉永小百合、小池朝雄、小沢栄太郎、平田大三郎、東野英治郎、安部徹、菅井一郎、森塚敏、杉江弘、藤岡重慶

拳銃は俺のパスポート

(84分・35mm・白黒)

穴戸錠が自らの最高傑作に挙げるハードボイルド・アクション。殺しの仕事を終えた上村(穴戸)は海外への逃走を試みるも組織の非情な対決に巻き込まれていく。穴戸は1954年に第1期日活ニューフェイスとしてデビュー。ニヒルな笑いが印象的な悪役として主役を圧倒する存在感を放ち、「エースのジョー」の愛称で日活アクションの黄金時代を支えた。

1967(日活)◎穴戸錠(上村周治)◎野村孝◎藤原審爾◎山田信夫、永原秀一◎峰重義◎松井敏行◎伊部晴美◎小林千登勢、ジェリー・藤尾、武智豊子、内田朝雄、宮部昭夫、佐々木孝丸、嵐寛寿郎

花札渡世(92分・35mm・白黒)

梅宮辰夫が自らの代表作に挙げる任侠映画。梅宮の出世作「夜の青春」シリーズ(1965-68)の脚本にも携わった成澤昌茂の脚本、監督のもと、不条理のなかで愛を貫こうとする博徒を情棍に演じて色気を放つ。梅宮は東映第5期ニューフェイスに合格して1959年にデビュー、「不良番長」シリーズ(1968-72)や実録やくざ映画など硬軟両様の役柄で、東映の「不良性感度」路線を担った。

1967(東映東京)◎梅宮辰夫(北川竜一)◎成澤昌茂◎飯村雅彦◎森幹男◎渡辺岳夫◎鵜淵晴子、伴淳三郎、遠藤辰雄、小林千登勢、安部徹、西村晃、沢村貞子、城野ゆき、浦辺条子

ケメ子の唄(84分・35mm・白黒)

ザ・ジャイアンツの同名ヒット曲に想を得た歌謡映画。ダンス好きの少女ケメ子(小山)が、ふとしたきっかけから足を踏み入れた芸能界と恋人(竹脇)との間で揺れ動いていく。この作品で監督デビューを果たした田中康義は、『ブローアップ ヒデキ BLOW UP! HIDEKI』(1975)など数本を監督したのち、主にプロデューサーとして活躍。助監督を務めた小津安二郎の関連資料や松竹社史の編纂も手がけた。

1968(松竹大船)◎田中康義◎中原竜太◎高橋三三、植村信吉、田向正健◎堂脇博◎横山豊◎山本直純◎小山ルミ、竹脇無我、谷幹一、川崎敬三、ザ・ジャイアンツ、葺かおる、根岸明美、十朱久雄



拳銃は俺のパスポート

濡れ牡丹 五悪人暴行篇*

(74分・35mm・パートカラー)

梅沢薫=大和屋竺(名義は日野洗)の監督脚本コンビ第3作で、裏切りと陰謀が悪夢のように連鎖する殺し屋映画の知られざる傑作。大和屋は主人公クロも演じている。登場する殺し屋たちは皆強烈な印象を残すが、女の匂いに執着する通称「坊や」を演じた港雄一と、アウトローの凄みと悲哀を体現した日野役の山本昌平がとりわけ光っている。

1970(国映)◎山本昌平(日野)、港雄一(坊や)◎梅沢薫◎日野洗◎久我剛◎木村新弥◎大和屋竺、真湖道代、加奈沢史郎、モウ・コバヤシ、相原香織、伊東真奈美、城浩、鏡勲平、津崎公平

影の車(98分・35mm・カラー)

未亡人(岩下)と深い関係になった既婚の会社員(加藤)は、彼女の息子の存在により自身の過去を想起するが…。川又昂は、1945年に松竹に入社し小津安二郎作品の助手を経て1959年に一本立ち、『青春残酷物語』(1960、大島渚)、『砂の器』(1974、野村芳太郎)、『黒い雨』(1989、今村昌平)などで腕を振るった。本作では、色彩処理によって幼年期の幻想を妖美な映像で表現している。

1970(松竹大船)◎川又昂◎野村芳太郎◎松本清張◎橋本忍◎重田重盛◎芥川也寸志◎加藤剛、岩下志麻、岡本久人、小川真由美、芦田伸介

どですかでん(140分・35mm・カラー)

黒澤明、木下恵介、小林正樹、市川崑が結成した「四騎の会」の第1作。毎日空想の電車を走らせる六ちゃん(頭師)と貧民街の様々な人間模様を鮮やかな色彩を用いて幻想的に描いた黒澤初のカラー作品。イタリア留学中に黒澤と知り合った松江陽一は帰国後、『隠し砦の三悪人』(1958)などに助監督として参加。本作と同様に製作を務めた『デルス・ウザーラ』(1975)はアカデミー賞外国語映画賞を受賞した。

1970(四騎の会=東宝)◎製作◎松江陽一◎◎製作◎黒澤明◎山本周五郎◎小国英雄、橋本忍◎斉藤孝雄、福澤康道◎木村木与四郎、村木忍◎武満徹◎頭師佳孝、菅井きん、殿村敏之、三波伸介、楠侑子、伴淳三郎

仁義なき戦い(99分・35mm・カラー)

任侠映画から「実録」路線への転換点となった大ヒット作で、シリーズ化された。日下部五郎は発案時から企画に携わり、脚本を依頼した笠原和夫の「今までとは全く違うホンを」という意気込みに応じて現地取材に同行し、配役は若手中心とした。志賀勝は麻薬中毒者役に凄味を発揮、野口貴史は広能(菅原)の忠実な子分・若見を第4作まで演じた。雑踏でのリアルなアクションを指導した上野隆三は、時代劇を中心に170本以上の映画や、その他TVドラマも多く手がけた。

1973(東映京都)◎日下部五郎◎上野隆三◎梅宮辰夫(若杉寛)、野口貴史(若見益夫)、志賀勝(横川信夫)◎深作欣二◎後藤浩滋◎飯干晃一◎笠原和夫◎吉田貞次◎鈴木孝俊◎津島利章◎菅原文太、松方弘樹、金子信雄、川地民夫、田中邦衛、三上真一郎◎小池朝雄



花札渡世

実録 私設銀座警察(94分・35mm・カラー)

終戦直後の銀座を舞台に、退役兵らによって結成された「私設銀座警察」が苛烈な暴力の渦のなかで裏社会の顔役に成り上がっていく。東映東京企画部で「不良番長」シリーズなどを手がけたプロデューサー吉田達也の企画のもと、佐藤純彌が戦後、日本が新生していく生みの苦しみのなかから派生していく悪夢のような混沌を、蓋をせずに描いてみた」と語るカルト的傑作。

1973(東映東京)◎吉田達也◎佐藤純彌◎梅宮辰夫(樋口勝)◎神波史男、松田寛夫◎仲沢半次郎◎北川弘◎日暮雅信◎安藤昇、渡瀬恒彦、藤浩子、中村英子、郷鍬治、室田日出男、近藤宏、内田朝雄、待田京介、葉山良二

日本妖怪伝 サトリ(99分・35mm・カラー)

人心を讀む民話の妖怪「サトリ」を題材に、都市に生きたる人間たちの孤独の風景を前衛的に描き出した異色作。寺山修司率いる劇団天井棧敷の舞台への客演など、60-70年代のアンガ全盛期に存在感を示した山谷初男が、その個性をいかんなく発揮。さすらいの時代の青年像を体現した河原崎次郎も印象深い演技を見せている。

1973(青林舎)◎山谷初男(サトリ)、河原崎次郎(ものくさ太郎)、織本順吉(大男)、原口剛(赤白の羽根売り)◎東陽一◎前田勝弘◎田村正毅◎下河原香雄、手塚研一◎緑魔子、佐藤慶、吉行和子、渡辺文雄

ねむの木の子(88分・35mm・カラー)

宮城まり子が、自ら設立した肢体不自由児のための養護施設「ねむの木学園」の子どもたちを記録した初監督作品。生命力にあふれた子どもたちの姿が、宮城自身の愛情に満ちた音楽や語りによって、美しく描かれる。岡崎宏三のダイナミックなカメラも素晴らしい。宮城による「ねむの木学園」シリーズ(1974-86)はこの後3作が撮られ、国内外で高い評価を得た。

1974◎製作◎宮城まり子◎岡崎宏三◎奥山重之助◎編劇◎諏訪三男◎ねむの木学園の子供たち、ねむの木学園の教職員

わたしのSEX白書 絶頂度*

(71分・35mm・カラー)

やくざ(益富)から猥褻な写真を受け取ったことから、病院の採血係(三井)が性に目覚め自らを愛容させていくさまを描いたロマンポルノ。日活で助監督を経てプロデューサーとして活躍した伊地智啓の代表作。伊地智は本作の翌77年に日活を退社し、キティ・フィルム設立に参加して相米慎二作品を世に送り出すなど、ポスト撮影所期の重要作を数多く製作した。

1976(日活)◎伊地智◎曾根中生◎白鳥あかね◎萩原憲治◎坂口武玄◎コスモス・ファクトリー◎三井マリヤ、芹明香、益富信孝、村國守平、神保ゆずる、梓ようこ、桑山正一、影山英俊、花上晃、五條博



『ねむの木の子』撮影中の宮城まり子監督(左から2人目)。カメラを覗いているのは岡崎宏三。

愛の嵐の中で(94分・35mm・カラー)

桜田淳子の主演第5作で、姉(夏)の不可解な死の真相を探る少女(桜田)を描いたサスペンス。1970年に監督デビューを果たした小谷承靖は、アイドル映画やアクション映画に手腕を発揮した。また『武士道ブレード』(1981)など海外での仕事も多く、トム・コタニとしても知られる。カーディーラー役の岸部四郎は、映画やTVでの三枚目的な役どころで持ち味を生かした。

1978(東映映画=サンミュージック)◎小谷承靖◎岸部四郎(戸川)、大林宣彦(CFディレクター)◎白坂依志夫、安本莞二◎上田正治◎薩谷和夫◎渡辺岳夫◎桜田淳子、夏純子、篠田三郎、中村敦夫、田中邦衛、岸田森、地井武男

宇宙からのメッセージ

(105分・35mm・カラー)

『スター・ウォーズ(エピソード4/新たなる希望)』(1977、ジョージ・ルーカス)に着想を得て、東映が即製した大作。日本の特撮をリードしつづけた矢島信男は、本作ではミニチュアセットを自在に駆けるシュノーケルカメラやビデオ合成などを駆使し、迫力ある映像を実現した。渡邊亮徳は、矢島も関わった東映のテレビ作品『仮面ライダー』、『スーパー戦隊』シリーズを生んだ製作者としても著名。植村伴次郎は東北新社の創業者。重たい覚悟を秘めた酋長を演じた織本順吉は、深作欣二作品に多数出演している。

1978(東映京都=東北新社=東映太秦映画村)◎植村伴次郎、渡邊亮徳(プロデューサー)◎岡田裕介(特撮監督)◎矢島信男◎織本順吉(キド)◎深作欣二◎高岩崇(プロデューサー)◎平山亨、サイモン・ウェー、杉本直幸、伊藤彰◎石森章太郎、野田昌宏◎松田寛夫◎中島徹◎三上陸男◎森岡賢一郎◎ビック・モロー、真田広之、志穂美悦子、成田三樹夫、千葉真一◎芥川隆行

月山(102分・35mm・カラー)

森敦の芥川賞受賞作を映画化した、村野鐵太郎の独立第2作。湯殿山麓の破れ寺にきた青年が、厳しい寒さや土地の特異な風習を体験しながら一冬を過ごす。大映東京で1960年に監督デビューを果たした村野は、71年に退社して独立し、日本人の精神の古層を探究する作品を数多く撮った。俳優座を拠点に映画でも活躍した河原崎次郎が、寡黙に自己を見つめる主人公・明を演じて趣深い。

1979(権の会=鐵プロ=俳優座映画放送)◎村野鐵太郎◎河原崎次郎(明)◎佐藤正之、太田六敏◎森敦◎高山由紀子◎高間賢治◎横尾嘉良◎松村禎三◎友里千賀子、滝田裕介、井川比佐志、稲葉義男、片桐夕子、菅井きん、小林尚臣

処刑遊戯(100分・35mm・カラー)

松田優作主演「遊戯」シリーズ(1978-79)の第3作。手持ちカメラでの長回しによるアクションシーンや、強い青のトーンを狙った画など、仙元誠三の果敢な撮影が画面を活気づかせ、盟友・村川透の演出や渡辺三雄の照明と相まって、ひと時も目を離せない映画となっている。仙元は、撮影所システムが衰退した映画の新しい形が徐々に模索されるなかで、長回しなど挑戦的なシーンを含む話題作を立て続けに生み出し、80年代以降のアクション映画のひとつの撮影スタイルを確立した。

1979(東映セントラルフィルム)◎仙元誠三◎村川透◎丸山昇一◎佐谷晃能◎大野雄二◎松田優作、ワリイ、青木義朗、山本麟一、佐藤慶、森下愛子

動乱(150分・35mm・カラー)

昭和初期、五・一五事件から二・二六事件までを背景に青年将校の葛藤を描く。岡田裕介が東映で初めて企画の立ち上げ時から携わった本作では、こだわりのある題材として二・二六事件を選び、自身の初主演作『赤頭巾ちゃん気をつけて』(1970)などにより師と仰ぐ森谷司郎に監督を依頼した。純愛ドラマを軸として、高倉健、吉永小百合の初共演を実現し、以降、岡田は吉永主演作を数多く手がけている。

1980(東映=シナノ企画)◎岡田裕介、坂上順久◎米明(溝口錦造)、和田周(白鳥大尉)◎森谷司郎◎池田静雄◎山田信夫◎仲沢半次郎◎中村州志、今村力◎多賀英典◎高倉健、吉永小百合、米倉育加、桜田淳子◎佐藤慶

火の鳥2772 愛のコスモゾーン(122分・35mm・カラー)

漫画「火の鳥」シリーズをもとに手塚治虫自身が新たなストーリーを構築したSFアニメーション。宇宙ハンターとして育成されたゴドー(塩沢)は火の鳥の捕獲を命じられるが……。中村和子は東映動画で『白蛇伝』(1958、殿下泰司)等に携わり、1962年に虫プロに入社して原画や作画監督としてTVや劇場作品で活躍。本作でアニメーションディレクターを務めるとともに、主に女性キャラクターを描いた。

1980(東宝=手塚プロ)◎アニメーションディレクター◎原中村和子◎監督◎手塚治虫◎杉山卓◎アニメーションディレクター◎原黒昇◎メカ作画◎湖川友謙◎カクイン◎御厨さと美◎特殊効果◎八巻馨◎伊藤信治、松本強◎樋口康雄◎塩沢兼人、三輪勝恵、竹下景子

嗚呼!おんなたち 猥歌*

(83分・35mm・カラー)

売れない中年のロッカーのジョージ(内田)と2人の女の奇妙な関係を描く、日活ロマンポルノ10周年記念作。企画は内田裕也本人が持ち込んだという。その後、内田は『コミック雑誌なんかいらない!』(1986、滝田洋二郎)を自ら発案し脚本を執筆、キネマ旬報ベスト・テンの主演男優賞にも輝くなど、才気と混乱に満ちた80年代日本映画を象徴する一人となった。

1981(にっかつ)◎内田裕也(ジョージ)◎高瀬将嗣(クラブの酔客)◎神代辰巳◎荒井晴彦◎山崎善弘◎渡辺平八郎◎中村れい子、角ゆり子、安岡力也、絵沢萌子

ピンクのカーテン*(70分・35mm・カラー)

ジョージ秋山の同名漫画を原作に、アパートの一室で同居することになった兄(阿部)と妹(美保)の微妙な関係を描く日活ロマンポルノ。美保純が奔放かつチャームな魅力を発揮し、各新人賞を獲得。兄妹の心理の移ろいを繊細なタッチで見せる上垣保朗の演出手腕も高く評価され、続編も製作されるなど彼の代表作となった。

1982(にっかつ)◎上垣保朗◎ジョージ秋山◎高田純◎野田悌男◎金田克美◎原マスミ◎美保純、萩尾なおみ、阿部雅彦、吉川敏夫、望月太郎、高崎蓉子、麻生うさぎ、芦沢洋三、小見山玉樹

MURDER!(10分・16mm・カラー)

1964演出◎作画◎和田誠◎古川肇郎、林政道◎八木正生

麻雀放浪記(109分・35mm・白黒)

1984(角川春樹事務所=東映)◎和田誠◎阿佐田哲也◎澤井信一郎◎安藤庄平◎中村州志◎高桑忠男、石川光◎真田広之、鹿賀丈史、高品格、大竹しのぶ、加藤健一、名古屋章、加賀まりこ

イラストレーターやアニメーション作家としてすでに有名だった和田誠は、『麻雀放浪記』で実写監督デビュー。終戦直後を舞台に麻雀の世界で生きようと志す青年を描く。和田は高品格といったベテラン俳優をも新境地に導く確かな演出の腕を見せ、高い評価を得た。一方、「アニメーション3人の会」から依頼を受けて製作され、大藤信郎賞にも輝いた短篇アニメーション『MURDER!』は、映画ファンとしての和田の熱狂がダイレクトに伝わる一篇。



月山

音楽活劇 ドレミファ娘の血は騒ぐ—予告編—(3分・35mm・カラー)**ドレミファ娘の血は騒ぐ**

(83分・35mm・カラー)

1985(EPIC・ソニー=ディレクターズ・カンパニー)◎宮坂進◎黒沢清◎丸山茂雄◎万田邦敏◎瓜生敏彦◎星莖恵子◎東京タラズ、沢口晴美◎洞口依子、麻生うさぎ、伊丹十三、加藤賢崇、輝峻剛三

高校時代の憧れの先輩に会いに上京した秋子(洞口)は先輩の変貌ぶりに失望して帰郷しようとする。日活ロマンポルノとして製作されたままお蔵入りになったものを再構成して完成した黒沢清初の一般映画。ディレクターズ・カンパニーの社長・宮坂進は、同社の設立から倒産までの10年間(1982-92)、黒沢をはじめとする9人の新進監督の創作活動を経営面で支え、数々の意欲作を世に送り出した。公開当時の予告編とあわせて上映。

ビー・バップ・ハイスクール**高校と太郎行進曲**(93分・35mm・カラー)

憧れのマドンナが海外留学に行ってしまう、無気力な日々を過ごしていたヒロシ(清水)とトオル(仲村)は、人質に取られた仲間を救うために立ち上がる。高瀬将嗣は、本シリーズで実際に打撃をあてる「フルコンタクト・アクション」を導入するなど画期的な取り組みを行い、迫力あふれるアクションシーンを作り上げた。高瀬は、主人公コンビに殴り込みをかける進学校の番長として出演もしている。

1987(東映東京)◎高瀬将嗣(服巻鉄也)◎那須博之◎さうかぜひる◎那須真知子◎森勝◎和田洋◎星昌紀見男、都志見隆◎清水宏次朗、仲村トオル、五十嵐いづみ、古川勉、宮崎高純

天使のはらわた 赤い眩暈*

(73分・35mm・カラー)

石井隆の劇画を映画化した「天使のはらわた」シリーズ(1978-94)の第5作で、石井の初監督作でもある。男に裏切られた名美(桂木)と自暴自棄になった証券マンの村木(竹中)の衝撃的な出会いと一夜の情交を描く。成田尚哉は1976-84年にかけて、日活ロマンポルノで多くのヒット作を企画製作、85年に退社して以降も『櫻の園』(1990、中原俊)など名作を世に送り出した。

1988(ニュー・センチュリー・プロデューサーズ)◎成田尚哉◎石井隆(プロデューサー)◎海野義幸◎佐々木原保志◎細石照美◎THE FLY◎桂木麻也子、竹中直人、泉じゅん、小林宏史、柄本明

遅かなる甲子園

(104分・35mm・カラー・日本語字幕)

戦争の悲惨さを伝える児童映画を多く監督した大澤豊が、1980年代初頭の沖繩のろう学校を舞台に、甲子園を目指し野球部を創設した高校生たちを描く青春映画。野球にかける情熱と将来への不安が交錯する、ろう学校の高校生の実実を捉えている。ろう者の学生や俳優も出演し、のちの忍足亜希子主演「アイ・ラブ」シリーズ(1999-2003)の製作にもつながる作品。ケーシー高峰は、野球部員の父親役。短い出演シーンながら、物語の転換点となっている。

1990(大映=双葉社=サ・アイデア)◎大澤豊◎ケーシー高峰(真喜志新市)◎小野卓司、山本おさむ、戸部良也◎国弘威雄◎山本駿◎細石照美◎谷川賢作◎林泰文、佐久間哲、萩原聖人、小川真由美、三浦友和、田中美佐子、植木等



麻雀放浪記

戦争と青春(109分・35mm・カラー/白黒)

今井正の最後の作品。現代の高校生(工藤)が夏休みの課題に取り組むうちに、東京大空襲時に伯母(奈良岡)の松に起こった悲劇を知っていく。空襲場面の壮大なオープンセットを実現した美術の春木章と、爆音と叫びが入り混じる喧噪を再現した録音の本田政は、共に独立系映画を中心に活躍、後進の育成にも力を注いだ。

1991(こぶしプロ=プロデュースセンター=「戦争と青春」製作委員会)製作◎本島大津豊◎春木章◎録音◎本田政◎今井正◎製作◎岡村光雄◎早乙女勝元◎岡崎宏三◎佐藤勝◎工藤夕貴、佐野圭亮、井川比佐志、奈良岡朋子、松村達雄、藤田弓子、河原崎長一郎、樹木希林

映像評伝 仁科芳雄 現代物理学の父

(97分・16mm・カラー)

戦争の時代を科学者として生き抜き、多くの優れた研究者を育てた仁科芳雄の平坦ならざる生涯を描く。野崎健輔は、中日映画でニュース映画を企画演出し、1975年からフリーに。太宰府天満宮の祭を記録した『鬼すべ』(1983)といった祭祀の記録や、炭鉱労働や大規模工事の記録映画を中心に高い評価を得た。

1991(企画:岡山県庄町、科学振興仁科財団/制作:山陽映画)◎◎野崎健輔◎三澤敏之、西川浩史、宇野竜治、坪山武浩◎城戸邦男◎生野文治

伝統工芸技術記録映画シリーズ-28-

読谷山花織—與那嶺貞のわざ—

(31分・35mm・カラー)

1966年のイザイホーの記録や農協の活動記録などを通じて、野村岳也は父親の戦死の地でもある沖縄の人々の生活や想いを取材しつづけた。本作では、80年余途絶えていた幻の織物「読谷山花織」の復元に取り組んだ與那嶺貞のわざを記録している。

2000(企画:文化庁/製作:シネマ沖縄)◎◎野村岳也◎與那嶺貞◎長沢勝俊◎国井雅比古

ありふれた愛に関する調査

(107分・35mm・カラー)

ハードボイルド小説を原作に、しがた中年探偵(奥田)の不甲斐ない日々を描いて哀愁を漂わせる。小林壽夫は録音助手を経験後、日活出身の山田耕大が立ち上げた企画製作会社メリエスに参加。『私をスキーに連れてって』(1987、馬場康夫)のライン・プロデューサーを皮切りに『僕らはみんな生きている』(1993、滝田洋二郎)、『シャ乱Qの演歌の花道』(1997、滝田洋二郎)などを製作した。

1992(メリエス=サントリー)製作◎小林壽夫◎榎戸耕史◎関川夏央◎荒井晴彦◎野田昌男◎小川富美夫◎梅林茂◎奥田瑛二◎世良公則、池田昌子、小林かおり、津川雅彦、すまけい、川地民夫

岸和田少年愚連隊(106分・35mm・カラー)

1975年の岸和田を舞台に、ケンカに明け暮れる中学生たちを描く。本作で録音技師として一本立ちした鈴木肇は、大阪弁の抑揚を生き生きと活かし、乱闘シーンでは細やかな音声描写を行なった。鈴木は松竹にて『釣りバカ日誌』シリーズ第16-22作(2003-09、朝原雄三)、『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』(2018、前田哲)などを担当、「映像に合った自然に感じる音」を目指した。

1996(松竹=吉本興業)録音◎鈴木肇◎スタジオ多良政◎志賀勝(岩田)、笑福亭松之助(喜一)、山田スミ子(古参のウェイトレス)◎井筒和幸◎中場利一◎鄭義信、我妻正義◎浜田毅◎細石照美◎藤野浩一◎矢部浩之、岡村隆史



ピー・ハップ・ハイスクール 高校与太郎行進曲

鉄道員(112分・35mm・カラー)

浅田次郎の直木賞受賞作の映画化。雪深いローカル線終着駅を守り続けてきた鉄道員の奇跡のような最期の目々が抒情的に描かれる。「新網走番外地」シリーズ(1968-72)などで東映任侠路線の一翼を担った降旗康男は『地獄の掟に明日はない』(1966)で初めて高倉健とコンビを組み、東映退社後も『駅STATION』(1981)などを監督して、寡黙で実直な健さんのイメージを確立した。坂上順は1962年に東映に入社後、『新幹線大爆破』(1975、佐藤純彌)などの話題作を手がけ、本作で製作者に贈られる「藤本賞」を受賞した。

1999(「鉄道員」製作委員会)◎◎降旗康男◎企画◎坂上順◎監督◎佐々部清◎志村けん(吉岡肇)◎◎神村謙二、御厨敏雄、後藤広喜◎浅田次郎◎岩間芳樹◎木村大作◎福澤勝◎国吉良一◎高倉健、大竹しのぶ、広末涼子、小林稔侍、田中好子

チルソクの夏(114分・35mm・カラー)

1977年、釜山で開かれた親善陸上競技大会に出場した郁子(水谷)は韓国の少年(鈴木)に出会い、垣根を乗り越えて愛を育んでいく。佐々部清は、故郷・下関市を舞台に、陸上選手だった妹の経験談や父親の思い出を織り込んで郷愁漂う青春映画に仕上げた。地元根を下ろし、地道に生きていく人々の触れ合いを通じて人間を描き続けた佐々部の方向性が示された監督第2作。

2003(「チルソクの夏」製作委員会)◎◎佐々部清◎坂江正明◎若松孝子◎加羽沢美濃◎水谷妃里、上野樹里、桂亜沙美、三村恭代、鈴木淳評

スパイ・ゾルゲ(183分・35mm・カラー)

篠田正浩が長年温めた企画で、海外ロケも行った歴史大作。ゾルゲ(グレン)と尾崎秀実(本木)の協力関係を軸に、国際平和を求める2人の理想と挫折が綴られる。平成「ガメラ」シリーズ(1995-99)などの美術で知られる及川一は、2人が取り調べを受ける拘置所で重厚で静謐なアールデコ調に造形した。多良政司は1970年代から東宝のスタジオ録音に従事し、ハードとソフト両面において映画音響の発展に貢献した。

2003(「スパイ・ゾルゲ」製作委員会)◎◎及川一◎スタジオエンジヤ◎多良政司◎原口剛(本庄繁)◎◎篠田正浩◎ロバート・マンディ◎鈴木達夫◎陳紹勉、アネット・ロフィ◎池辺晋一郎◎イアン・グレン、本木雅弘、椎名桔平、上川隆也、葉月里緒菜、小雪、夏川結衣、永澤俊矢、若下志麻

わらびのこゝろ 藤野行

(125分・35mm・カラー)

村の掟に従い、60歳を迎えて近隣の丘に棄てられた老人たちの原作を通して、生と死を問いつけた作品。村田喜代子の原作に忠実に、姑(市原)と嫁(清水)が互いに語りかけながら進行する構成が秀逸で、とりわけ市原悦子の滋味にあふれた語りや、映画に深い奥行きを与えている。舞台やTVなど多方面で活躍した女優市原にとって、本作は映画初主演作。紛れもない代表作となった。

2003(日本の原風景を映像で考える会=タイムズイン)スタジオエンジヤ◎多良政司◎市原悦子(レン)、原知佐子(チヤ)◎恩地日出夫◎村田喜代子◎渡辺寿◎上田正治◎斎藤岩男◎猿谷紀郎◎清水美那、石橋蓮司、中原ひとみ、李麗仙



鉄道員 © 1999「鉄道員(ぼっぼや)」製作委員会

ユキとニナ

(93分・35mm・カラー・日本語字幕付)

Yuki & Nina

9歳の少女ユキ(サンビ)は離婚を決めた両親のよりを戻そうと親友のニナ(ムーテル)と家出を決行する。迷い込んだ森で一人になったユキは新しい世界へ足を踏み入れるのだが…。吉武美知子はフランスの新鋭監督をいち早く日本に紹介したほか、『ダゲレオタイプの女』(2016、黒沢清)、『ライオンは今夜死ぬ』(2017、諏訪敦彦)などの合作映画のプロデュースに携わり、日仏を映画でつないだ。

2009(コム・テ・シネマ=レ・フィルム・デュ・ランドマン=アルテ・フランス・シネマ=ビターズ・エンド)スタジオエンジヤ◎吉武美知子◎◎諏訪敦彦◎◎イボリット・ジラルド◎ジョゼ・デエー◎エマニュエル・ド・ショヴィニ、ヴェロニク・ベルネウ、鈴木千奈◎フォーレン・オフィス◎ノエ・サンビ、アリエル・ムーテル、ツユ、マリリーヌ・カント

共喰い(102分・DCP・カラー)

田中慎弥の芥川賞受賞小説を映画化。昭和末期の下関を舞台に、暴力的な性癖を持つ父親(光石)を軽蔑しながら、やがて自身のなかの暴力性に気づき苦悩する少年(菅田)の姿を描く。獅子プロダクションを経てフリーの照明技師となった松本憲人は、近年も青山真治の『空に住む』(2020)などを担当。撮影の今井孝博とは行定勲監督でもコンビを組み、独特の空気感漂う映像を紡ぎ出した。

2013(「共喰い」製作委員会)◎◎松本憲人◎◎◎青山真治◎田中慎弥◎荒井晴彦◎今井孝博◎清水剛◎菅田池信之◎山田勲◎菅田将暉、木下美咲、篠原友希子、光石研、田中裕子、岸部一徳

シャルロット すさび

(176分・DCP・白黒/カラー・日本語字幕付)

1970年代からヨーロッパを中心に舞踏家として活動し、自主映画作家としても7本の作品を監督した岩名雅記の最後の長篇作品。岩名自身を投影したパフォーマー(成田)が、死んだ前妻やパリで出会った女性など、時空を超えた人々との交流を通じて、自らの内面と世界の様相を見つめていく。

2017(Solitary Body)◎◎◎岩名雅記◎高橋哲也◎藤枝蓮◎平石博一◎クララエレナ・クーダ、成田護、大澤由理、高橋恭子、岡崎弘、鈴木あい、ムッシュ・テ、クザマ・レダ、蓮尾卓美



ユキとニナ

© Yoshi OMORI



シャルロット すさび

© La Maison du Butoh Blanc・Solitary Body

京マチ子(1924-2019)

大阪市生まれ。大阪松竹歌劇団を経て、1949年、大映にスカウトされ入社。同年、『痴人の愛』(木村恵吾)のナオミ役で従来の日本映画にはない大胆な女性像を見せて注目を集め、以後、戦後を代表する女優として活躍する。『羅生門』(1950、黒澤明)以降は国際的にも人気を誇った。最後の映画出演作は『化粧』(1984、池広一夫)。

森崎東(1927-2020)

長崎県島原市生まれ。1956年に松竹京都撮影所に入社し、65年に大船撮影所に移籍。野村芳太郎監督らの作品で助監督を務めた後、69年『喜劇 女は度胸』で監督デビュー。74年にフリーとなる。社会の表舞台に現れない人々の怒りと鬱屈に焦点を当てた喜劇ならぬ「怒劇」をつくり続けた。

45

牝犬(100分・35mm・白黒)

京マチ子が『痴人の愛』、『浅草の肌』(1950)に続いて木村恵吾とコンビを組んだ作品で、肉体派ヴァンプ女優としての一つの到達点を示した。京は謹厳実直な会社員・堀江(志村)を堕落させる踊り子エミーを演じる。自らの欲望に忠実に行動し、自分になびかないサクセス吹きの白川(根上)を何度も誘い、心を奪おうとするエミーの姿は、敗戦後の日本が渴望した人間像でもあった。

1951(大映東京) 京マチ子(エミー) 木村恵吾 成澤昌茂 山崎安一郎 柴田篤二 飯田三郎 志村喬 根上淳 久我美子 利根はる恵 加東大介 北林谷榮 藤原釜足 宮原恭子

47

大阪の女(104分・35mm・カラー)

八住利雄の連続TVドラマ「女神誕生」(1957)の映画化。大阪出身の京の持ち味を生かすために企画された。夫に先立たれたお千(京)は流しの芸人・米太郎(船越)と再婚するが、幸せな日々も長く続かない。京いわく『道』(1954、フェデリコ・フェリーニ)のジェルソミーナを連想させるお千が、不運に見舞われながらも無垢な心を失わず生き抜いていく姿が軽やかなタッチで描かれ、胸をふるわせる。

1958(大映東京) 京マチ子(お千) 衣笠貞之助 八住利雄 相良津 渡邊公夫 柴田篤二 齋藤一郎 船越英二 小野道子 高松英郎 角梨枝子 中村鷹治郎 山茶花究 丹阿彌谷津子 小夜福子 賀原夏子

49

野良犬(104分・35mm・カラー)

黒澤明の名作(1949)をリメイク。拳銃を盗まれた若い刑事(渡)がベテラン刑事(芦田)とともに犯人を追いつけていく、という大筋は同じだが、舞台を沖縄人コミュニティが根づく鶴見・川崎の工業地帯に移し、犯人を沖縄から集団就職でやって来た若者グループに変更することで、沖縄と本土の戦後史について考察を促す作品に仕上げている。

1973(松竹大船) 森崎東 渡哲也(村上) 黒澤明 菊島隆三 一色雄 吉川憲一 佐藤之後 佐藤勝 芦田伸介 松坂慶子 志垣太郎 田中邦衛 財津一郎 中丸忠雄 緑魔子 中島真智子 赤木春恵

46

雨月物語(97分・35mm・白黒)

戦国の世、金と出世欲に取り憑かれた男たちが妻を失うさまを描き、ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞を受賞した、溝口健二の代表作の一つ。京は近江の城下に焼物を売りに来た源十郎(森)を誘う姫君を妖しくも優美に演じる。『羅生門』、本作、そして『地獄門』(1953、衣笠貞之助)と、海外映画祭受賞作に続けて出演した京は、「グランプリ女優」と形容されることになる。

1953(大映京都) 京マチ子(若狭) 溝口健二 上田秋成 川口松太郎 依田義賢 宮川一夫 伊藤薫 早坂文雄 森雅之 田中絹代 小澤榮 水戸光子 毛利菊枝 羅門光三郎 香川良介 上田吉二郎

48

濡れ髪牡丹(89分・35mm・カラー)

3千人の子分を持つ清見瀧のおもん(京)は、跡目を兼ねた婿探しを始める。候補者たちが押し寄せるも厳しいテストに次々と脱落、そこに手ごわい風来坊・瓢太郎(市川)があらわれる。京は威勢よくたなかを切り、立ち回りを演じるなど、貫禄と色気をまとった女親分に扮し、市川雷蔵との軽妙な掛け合いを披露する。

1961(大映京都) 京マチ子(清見瀧のおもん) 田中徳三 八尋不二 相坂操一 内藤昭 塚原哲夫 市川雷蔵 小林勝彦 小桜純子 大辻恒郎 井上明子 安部徹

50

黒木太郎の愛と冒険

(110分・35mm・白黒)

気弱だが冒険好きなたんたんと黒木太郎(田中)を中心に、彼の家族や友人、8mm映画を製作する若者たちの姿を描いた群像劇。森崎喜劇の常連である田中邦衛の主演を前提に企画された。森崎にとっては初めてATGで撮った作品でもあり、自決した兄への思いをにじませるなど個人的な情念が前面に押し出されている。

1977(馬道プロ=ATG) 森崎東 野呂重雄 村上雅彦 田口和雄 佐藤勝 田中邦衛 倍賞美津子 清川虹子 財津一郎 小沢昭一 緑魔子 殿山泰司 岡本喜八 沖山秀子 伊藤裕一 三國連太郎 伴淳三郎



牝犬



雨月物語



大阪の女



濡れ髪牡丹



野良犬



黒木太郎の愛と冒険

大林宣彦(1938-2020)

広島県尾道市生まれ。幼少期よりフィルムと戯れ、大学在学中より個人映画を発表。TVCFの監督としても一時代を築く。1977年『HOUSE』で商業映画デビュー。『転校生』(1982)に始まる「尾道三部作」や、厭戦のメッセージを前面に押し出した晩年の諸作品などで独自の映画観を示し続けた。

51

日本殉情伝 おかしなふたり ものくるほしきひとびとの群 (105分・35mm・カラー)

大林が自身の故郷・尾道を舞台に撮った小品で、完成から1年以上経ってようやく公開された。発明好きの青年(竹内)と金貸し(三浦)を中心に、夕子(南)という女性をめぐる「ものくるほしき」男たちの姿を描く。デビュー以来のトレードマークであった「A MOVIE」がこれを最後にいったん外されるなど、大林映画の転換点となった重要な一作。

1988(フィルムリンク・インターナショナル)◎◎◎編劇大林宣彦◎◎◎長野重一◎◎◎やまざき十三、さだやす圭◎◎◎剣持巨、小倉洋二◎◎◎藤谷和夫◎◎◎KAN◎◎◎竹内力、三浦友和、永島敏行、南果歩、正力愛子

52

ふたり(150分・35mm・カラー)

赤川次郎の同名小説の映画化で、「新・尾道三部作」の第1作となった。姉の千津子(中嶋)を事故で亡くした少女・実加(石田)が、姉の幽霊に見守られながら成長していく。脚本は、大林の商業映画デビュー作『HOUSE』以来たびたびコンビを組んだ桂千穂。『おかしなふたり』同様、大林とはCF時代から縁のある写真家の長野重一が撮影を手がけた。

1991(ギャラクシーピー・エス・シー=NHKエンタープライズ)◎◎◎編劇大林宣彦◎◎◎桂千穂◎◎◎長野重一◎◎◎赤川次郎◎◎◎藤谷和夫◎◎◎久石譲◎◎◎石田ひかり、中嶋朋子、尾美としのり、岸部一徳、富司純子



日本殉情伝 おかしなふたり ものくるほしきひとびとの群



愛と死の記録

渡哲也(1941-2020)

島根県能義郡安来町(現・安来市)生まれ。1964年に日活撮影所に入社し、翌年『あばれ騎士道』(小杉勇)でデビュー。「無頼」シリーズ(1968-69)などに主演し日活ニューアクションを牽引。1971年には石原プロモーションに入社。以降も、映画やTVドラマで、スターとしての存在感ある演技で魅了し、長きにわたり幅広い年代から支持された。

53

愛と死の記録(92分・35mm・白黒)

印刷工場に勤める幸雄(渡)は、友人のいたずらにきっかけに、レコード店で働く和江(吉永)と恋に落ちるが…。蔵原惟繕や吉永小百合らとともに徹底的にリハーサルを繰り返し、原爆症に苦しむ青年を演じた渡は、ブルーリボン賞新人賞を受賞。渡は本作を共同作業としての映画作りの充実感を感じた最初の作品に挙げている。

1966(日活)◎◎◎渡哲也(三原幸雄)◎◎◎蔵原惟繕◎◎◎大橋喜一、小林吉男◎◎◎姫田真久◎◎◎大鶴泰弘◎◎◎黛敏郎◎◎◎吉永小百合、佐野浅夫、滝沢修、芦川いずみ、浜川智子、中尾彬

54

紅の流れ星(97分・35mm・カラー)

『赤い波止場』(1958、舛田利雄)のリメイク。石原裕次郎が演じた主役を渡らしく軽快に、愛おしさたっぷりに演じる。東京で事件を起こして神戸の組織にかくまわれ、暇をもてあましている五郎(渡)は、行方不明の婚約者を探しに来た啓子(浅丘)と出会う。帽子を深くかぶった渡が見せるダンスシーンは必見のかっこよさ。

1967(日活)◎◎◎渡哲也(五郎)◎◎◎宍戸錠(沢井)◎◎◎舛田利雄◎◎◎池上金男◎◎◎高村倉太郎◎◎◎木村威夫◎◎◎鍋木創◎◎◎浅丘ルリ子、杉良太郎、藤竜也、山田禅二、奥村チヨ、松尾嘉代

55

かりしやく 前科・仮釈放(86分・35mm・カラー)

石原裕次郎など日活の1世代上のスターと異なり、渡は泥臭いアクションや軽薄なキャラクターで魅せた。本作で渡は、歯医者者の史江(松原)に強引な好意を寄せるやくざ・竜次を演じる。竜次が復讐を遂げる終盤の格闘シーンは、バス停留場などの整備が進んだ新宿西口が舞台となり、新時代に取り残されながらも、変わらず生きるやくざの姿を浮き彫りにしている。

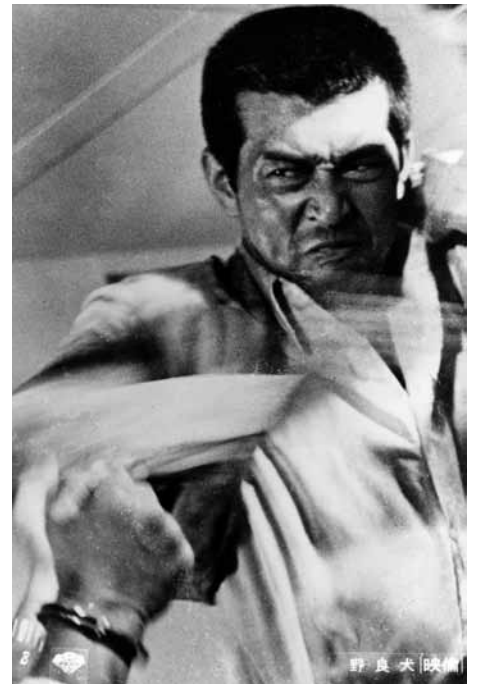
1969(日活)◎◎◎渡哲也(大原竜次)◎◎◎小澤啓一◎◎◎池上金男◎◎◎高村倉太郎◎◎◎川原資三◎◎◎鍋木創◎◎◎松原智恵子、沖雅也、内田裕、青木義朗、今井健二、長内美那子、大木実、杉本エマ



紅の流れ星



前科・仮釈放



野良犬

前売指定席券販売期間変更にご注意ください!

毎週火曜日10:00amより翌週(火~日)の上映回
のチケットをチケットぴあにて販売します。
上映スケジュールはHPをご覧ください。

*上映スケジュールは国立映画アーカイブHPをご覧ください。



『チルソクの夏』撮影中の佐々部清監督
© 2003 チルソクの夏製作委員会



わらびのこう 蕨野行



共喰い © 田中慎弥/集英社・2013『共喰い』製作委員会

展示室(7階)

【企画展】

創刊75周年記念 SCREENを飾ったハリウッド・ スターたち

Hollywood Stars in SCREEN Magazine:
Commemorating its 75th Anniversary

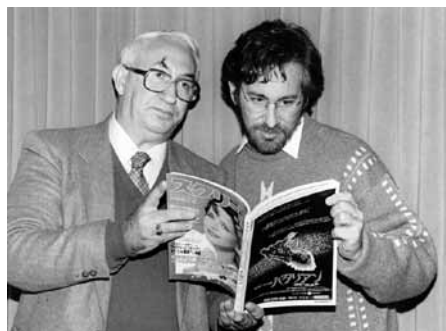
2021年4月13日(火)–8月1日(日)

* 月曜日および5月25日(火)–28日(金)、7月6日(火)–7日(水)は休室です。

主催:国立映画アーカイブ、近代映画社

外国映画の最新情報を日本に届け続けている近代映画社の月刊誌「SCREEN」は、2021年に創刊75周年を迎えます。ハリウッドでの現地取材にこだわってきた同誌が独自に撮影した華やかなスター・フォトを展示するとともに、独自取材を担ってきたハリウッド通信員たちの活動にも触れます。

* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。



スティーブン・スピルバーグ[右]とハリウッド通信員ヤノ・ベガキス[左](1986年頃) © Kindaiegasha

【企画展】

生誕120年 円谷英二展

Eiji Tsuburaya: at his 120 years Celebration

2021年8月17日(火)–11月23日(火・祝)

* 月曜日および9月7日(火)–10日(金)、9月26日(日)–10月3日(日)、10月12日(火)–15日(金)は休室です。

主催:国立映画アーカイブ、須賀川市

特別協力:円谷プロダクション

特撮技術を切り拓いて東宝の戦争映画・怪獣映画・SF映画を支え、後に自ら円谷プロダクションを興してテレビにおける特撮の礎を築いた円谷英二(1901–1970)。その生誕120年を記念し、特撮に取り組む以前のカメラマン時代にも注目しながらその生涯と功績を紹介しします。

* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。



撮影用クレーンに乗る円谷英二[左](1934年)

【常設展】企画展に併設

NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFAJ Non-film Collection
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

開室時間=午前11時–午後6時30分(入室は午後6時まで)

料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上・高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)・国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、障害者、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

* 国立映画アーカイブの上映観覧券(鑑賞後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

NFAJ Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<https://www.nfaj.go.jp/online-service/digital-gallery>



前売指定席券の購入方法

[Pコード:551-490] *販売期間にご注意ください!
毎週火曜日10:00amより翌週(火~日)上映販売
チケットぴあサイト <https://w.pia.jp/t/nfaj-yukeru19-20/>

セブン-イレブン(店頭のマルチコピー機)で購入

▶ 各回の上映1時間前まで

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円がかかります。

* チケットぴあ店舗は、6月末日にて全店舗閉店のため、7月以降の取り扱いはありません。

受付電話(0570-02-9999)で購入

▶ 各回の4日前11:59pmまで

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円がかかります。

* 毎週火・水2:30am–5:30amはシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイトで購入

▶ 購入時期によってご利用可能な決済方法が異なります。上映当日は、クレジットカードまたはちょコム決済で各回の上映1時間前まで購入が可能です。

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料110円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。

* 必ず発券してから来館ください。

* セブン-イレブンおよび受付電話での購入では座席選択ができません。全体的に散らばるよう自動で割り振られます。

* 手数料等の詳細や購入方法に関する最新情報については、チケットぴあのサイト<https://t.pia.jp/>をご覧ください。

* 本前売指定席券購入に、システム利用料はかかりません。

1階受付では、「NFAJニューズレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。



FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル050-5541-8600
ホームページ: www.nfaj.go.jp

Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR
Instagram: nationalfilmarchiveofjapan